

●主の語りかけ ●美しい声

皆様お元気でいらっしゃいますか？

ただ今、刊行本「賛美のこころ」の最終校正の真っ最中です。そんな時にメルマガを書くなど、すごい余裕と思われるかもしれませんが、一昨日から、約300ページの原稿を、少なくとも3度注意深く読み直しました。そこで今、一度少し頭を休めなければならないと、皆様にメルマガを書かせていただいている次第です。



●主の語りかけ

数週間前から、自他ともにいくつかの大きな祈禱課題が持ち上がり、気が付くと、心の中で主にいつも嘆願しているような日々が続きました。一週間ほど前、祈ってもなかなか重い気持ちが晴れなかったので、思い切って、ハンブルクのシュパイヒャー・シュタット(運河沿いに建てられたレンガ作りの倉庫街、写真：左上)に散歩に行ったのです。散歩する間も、主に嘆願し続けていました。



そこから13世紀に建てられたカタリーナ教会(写真：右)の中庭に入った時のことです。突然不思議な静寂に包まれ、神の臨在を感じました。思わず、私は心の中で、「主よ、どうぞお語りください！」と言ひ、しばらくそこにたたずんだのです。しかし、神が何か語りかけてくださった訳ではありませんでした。ただ、「主が共におられる」、という今までに味わったことのないような深い平安と喜びに包まれ、私にはもうそれだけで十分でした。

翌朝、マルコの福音書を開くと、冒頭の「神の子イエス・キリストの福音のはじめ。」というみことばに、今まで気付かなかった大きな驚きを覚えました。そして「どうぞ、主よ、今日、あなたがこの箇所を通してお語りくださいますように」と祈りながら、読み始めてみました。主の語りかけに耳を傾けながら、ところどころ立ち止まって瞑想し、祈りながら読んでみると、一章の終わりに来たときには、すでに1時間が過ぎていました。

今日は、8章を読み終えたところですが、日々、心に刻印を押されるような主の深い語りかけを聞くことができ、素晴らしい主との交わりを味あわせていただいています。その中で、深い悔い改めにも導かれました。心が砕かれてくると、神の愛もくっきり見えてくるようになりました。嘆願ととりなしの祈りは、相変わらず続いています。それも、主との交わりの中で導かれた祈りとなってきたのを感じています。この主との交わりを、これからも大切にしていきたいと思っています。

●美しい声

ところで何年も歌を習いに来ている生徒に、最近、大きな変化がありました。

私のところに歌を習いに来た当初は、あごや舌に力が入っており、また、声帯をこすり合わせながら声を出すので、いわゆる「ちりめんビブラート」、ヨーロッパでは「山羊の声」と呼ばれる、細かいビブラートが入っていました。この発声を直すのは容易なことではないと思いました。途中、もう私には彼女に教える力がないと思い、別の先生のレッスンを受けることを勧め、彼女も、別の先生のところに行っていた時期もあります。それでも、彼女は引き続き、私のところに通い続けました。

しかし彼女には、自分の発声の欠点を指摘されると、それを素直に受け入れ、問題を直視できる明晰さがありました。そして最近、突然光が見えてきたのです。余計な力から解放され、声を響かせる頭声発声のポジションが見つかり、声がどんどん美しく響くようになりました。私は、それまで彼女が美声の持ち主だとは思っていませんでした。ところが、彼女の本来の声は、原石が磨かれたダイヤモンドの如く美しい声だったのです。



この地上での幕屋を着ている限り、私たちの賛美は決して完全ではありません。私は最近、いつか天の御国で、主に完全な賛美(礼拝)を捧げさせていただくことを心から渴望するようになりました。その時私たちは、キリストに似た完全な姿に変えられて主を賛美(拝)させていただくのですが、声も美しく変えられることまでは考えたことがありませんでした。けれども、この地上においてさえ、声が肉体的な余計な力から解放され、彼女のように美しく変えられるとすれば、まして、私たちが天上で与えていただく声は、どんなにか美しい響きを伴うものとなるでしょう！ですからその時まで、この地上では、face to face 一主のみ顔を仰ぎながら、音痴でも、声が良くなくても、そんなことは気にしないで、共に心からの賛美を主に捧げてゆこうではありませんか！（写真：松林幸二郎さん撮影）

刊行本「**賛美のころ**」、自分で言うのもおかしいのですが、原稿を読み返しながら、感動しています。自分の本にではなく、私の弱さに働いて来られた「神の恵みとみ力」にです。文章化して初めて気が付いたことですが、主が大きなみ業をなしてくださる前には、私は体調を崩して病気になっていることが多いのです。神は私を弱くし、主のみ力にのみより頼む者としてくださいました。まさしく、以下のみことばの通りです。

「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱いところにこそ力強く働くのだから。」（第一コリント 12:9 ルター訳聖書）

「賛美のころ」は、予定より少し遅れて7月上旬に発売予定です。皆様にもこの本を通して、主の素晴らしさを共有していただき、主をほめたたえていただければ、こんなに嬉しいことはありません。また、出版に至るまでの全ての行程が守られ、この本が主のご栄光のために用いられますよう、お祈りください。

どうぞ祝された一週間を過ごされますように！

工藤篤子

事務局より《新刊のご案内》



工藤篤子著 「賛美のこころ」 Heart of Worship …主のみ顔を仰ぎつつ

多くの人々は、世界各地で活躍中の地中海ソプラノ賛美歌手工藤篤子の人生背景に深い関心をもっています。この新刊は、そういう方々に静かに語りかけてくれる良書です。神が一人の歌手を召し出し、世界各地でどのように用いておられるかその奥義を知ることができます。多くの方々の必読の書です。どうぞご購入くださいますようお願いいたします。

出版社 イーグレイプ
定価 1575円(税込み)

出版予定時期 7月上旬

ご注文、お問い合わせは、キリスト教書籍を扱う書店、または事務局まで。

◎また次のサイトから、「賛美のこころ」コーナーが掲載されていますので、是非ご覧下さい。

<http://www.bmp.jp/kudo/01.htm>